

## 自然環境調査結果の概要について

出雲市では、市内の自然環境の状況を把握し、各種の施策に活用するため、野生生物を対象とした調査を継続的に実施しています。

令和2年度は、出雲市の南西部に位置する多伎地域、湖陵地域、佐田地域、出雲地域の河川について、生息する水生動物と水生植物の調査を行いましたので、その概要を報告します。

### ○調査の対象

この調査では、市内の生物多様性を知るため、確認された生物をできるだけ記録するようにしています。

この中には、レッドデータブックやレッドリスト（注1）の掲載種のほか、環境省の生態系被害防止外来種リストに掲載されている外来生物（注2）が含まれています。

### ○調査地域

多伎地域、湖陵地域、佐田地域、出雲地域の14の河川から25地点を選び、調査を行いました。



市内の調査河川概略

### ○確認された生物

令和2年度の調査で記録された生物（水生動物・水生植物）の全種数は、107種です。その内訳は、両生類5種、魚類3種、巻貝5種、甲殻類13種、昆虫類76種、水草5種です。

### ○水生動物

河川で見られた希少種としては、島根県版レッドデータブックや環境省のレッドリストに掲載されている貝類1種、甲殻類3種、昆虫類3種、両生類3種

が確認されています。(別表 1 参照)

外来生物は、確認されませんでした。

#### ○水生植物

島根県版レッドデータブックや環境省のレッドリストに掲載されているミズオオバコを確認しました。また外来種として確認したオオカナダモは、環境省の総合対策外来種・重要対策外来種に指定され、特に生態系に悪い影響を与えることが心配されている種です。

#### ○出雲市多伎・湖陵・佐田・出雲地区の河川生物とその特徴

調査を行った多伎地域、湖陵地域、佐田地域、出雲地域の河川は、平野部と比べて、流れが速く、水温が低い川が多いことが特徴です。そのため、溪流環境に生息する生物が多い一方で、水草が生えるような、流れの緩い場所は限られます。平成 19 年度から 21 年度に同じ地域の河川を調査しています。調査結果を比べてみると多く見られる生物については、大きな変化はありませんでした。

(注 1) レッドデータブックやレッドリストは、絶滅のおそれのある野生動植物をまとめた資料で、環境省や都道府県などが発行したものが 있습니다。島根県では、平成 25 年と 26 年に改訂版のレッドデータブックが発行されています。環境省はレッドリストとして、定期的に絶滅のおそれのある野生動植物のリストを見直しています。

(注 2) 正式名称は、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」。侵略性が高く、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがあるものから選定した外来種のリストです。

(別表1)

## 水生動物

貝類 (1種)	ヒラマキミズマイマイ	
甲殻類 (3種)	ヒメヌマエビ	ヤマトヌマエビ
	ミナミヌマエビ	
昆虫類 (3種)	アオハダトンボ	アヤスジミゾドロムシ
	セマルヒメドロムシ	
両生類 (3種)	タゴガエル	トノサマガエル
	カジカガエル	